夢の自動田植機

－日本の田植えの発展に貢献した地域の先人に学ぶ－

１　学　年　第９学年〔後期〕
２　主題名　国家の発展〔４－（９）〕
３　ねらい
　米作りにおいて大変な重労働であった田植えの作業を，田植え機の発明によって省力化しようと努力した春三さんの生き方を通して，地域や国の発展に努めようとする実践意欲を育てる。
４　資料名　「夢の自動田植機」
５　展　開

	学習活動と主な発問	生徒の反応	指導上の留意点
導入	１　二反田春三さんの田植機を知る。 ○　これは何でしょう。 ○　写真を見て気付いたことを発表しましょう。	・　エンジン ・　田植機 ・　昔の田植えの様子 ・　大変そう	○　田植機の写真を見せることにより，本時の学習への関心をもたせる。
展開	２　資料「夢の自動田植機」を読んで話し合う。 ○　昔の田植えはどんなことが大変だったのでしょう。	・　機械がないので手作業で時間がかかり重労働だった。 ・　子どもまで手伝わなければならなかった。	○　昔の米作りの写真や小学校で学習した日本の農業（米作り）を想起させながら田植えの大変さを感じ取らせる。
	○　春三さんは家族に対してどんな気持ちだったでしょう。	・　家族に迷惑をかけて，すまない。 ・　みんなのためだ。今，やめることはできない。 ・　自分の仕事について，理解してほしい。	
	○　実験が失敗し，家族にも反対された春三さんが，研究を続けることができたのはなぜでしょう。	・　機械の発明が大好きだったから。 ・　田植機の発明で多くの農家の人が楽になり，喜んでくれるから。 ・　強い信念があったから。 ・　彼の努力がなかったら，自動田植機は発明されなかったと思うから，すばらしい。	○　家族と仕事の両立に苦悩しながらも田植機の開発に打ち込む春三さんの心情に共感させる。
	◎　結局，田植機を実用化できなかった春三さんですが，彼の生き方をどう思いますか。	・　実用化できなかったけれど，研究したことが活かされ，実現されたので無駄ではない。すばらしい。 ・　一つのことを粘り強く，私利私欲を超えて研究する姿はかっこいい。	○　どんな発明や発展も多くの人のつながりの中で，実現していくものであることに気付かせる。
終末	３　教師の説話を聞く。	・　先人達の苦労のお陰で日本の農業が発達してきたんだな。	○　現在の田植えの様子の映像を準備する。 ○　「心のノート」（P. 126）を活用するのもよい。

６　授業の概要

⑴ 主題について

中学校の内容項目〔４－（９）〕「国家の発展に努めるとともに，優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。」をもとに設定した。日本の米作りに大きな変革をもたらしたのが自動田植機の開発であった。その開発の先駆者達の中に，郷土の先人がいたことや，彼らの努力が日本の伝統的な米作りの発展に貢献したことを知り，地域や国の発展に寄与しようとする実践意欲を育てたい。

⑵　自作資料活用のポイント

ア　活用する時期

生徒総会や卒業前など，先輩達のやってきたこと，あるいは自分たちが生徒会活動や地域へ関わってきた思いや体験を振り返らせたい時期に扱うとよい。

イ　資料の中心場面で考えさせたい内容

家族の思いも感じ取らせ，春三さんの葛藤を理解し，それでも地域や国の発展のために努力を続けていく彼の生き方を感じ取らせたい。

⑶ 指導過程の工夫

ア　導入の工夫

春三さんが開発した田植機や昔の田植えの写真を準備しておき，導入で紹介することによって資料への興味付けを行うのもよい。

イ　終末の工夫

現在の田植えの風景の写真や映像を視聴させることによって，日本の田植えが大きく発展したことを実感させるとよい。

⑷ 参考資料

広郷土史研究会(会報第９６号)

⑸ 協力者

小栗　康治氏

二反田　正氏

（広中央中学校　　川空幸男）